

多摩ニュータウン再生の道しるべ 全体計画について

1. 報告案件の主旨について

令和2年2月に多摩市ニュータウン再生推進会議において、「多摩ニュータウン再生の道しるべ 全体計画 ～多摩ニュータウン再生で描く将来都市構造イメージ～（以下「全体計画」という。）」が多摩市への提言という形でとりまとめられました。

全体計画は、平成28年3月に多摩市が策定した「多摩市ニュータウン再生方針」で示す目指すべき都市構造を、多摩市域における多摩ニュータウン全体に落とし込み、2040年代の将来都市構造の考え方を示しています。

本件は、令和元年11月21日に開催された令和元年度第2回多摩市都市計画審議会協議会における「素案」の報告に続き、とりまとめられた提言をご報告するものです。

2. 全体計画の目的

全体計画は再生方針で示された概念としての目指すべき都市構造の具体化をもって、以下2点の目的を持っています。

- ① 諏訪・永山地区に続く他地区のまちづくり計画の基礎とすること。
- ② 今後、改定が予定されている多摩市都市計画マスタープランの下支え。

3. 全体計画の概要

全体計画は2040年代の都市構造の考え方として、以下4つの視点で検討されました。

- ・多様な拠点の強化連携型コンパクトを目指す（再生方針の目指すべき都市構造）
- ・広域交通インフラ整備の影響を考慮して計画する
- ・「ゾーニング」、「拠点」、「ネットワーク」の考え方に基づき全体計画を示す
- ・鉄道駅の性格、住区の特徴などを踏まえた計画とする

また、全体計画の中で、主要な拠点、骨格等に関わる項目について多摩市都市計画マスタープランの改定に必要と考える視点を重点テーマとして設定し、併せて再生推進会議においても引き続き検討すべき事項を整理しています。

4. 今後について

今後、提言を受けた全体計画について以下2点に係る検討に活用してまいります。

- ・令和2年度以降、検討に着手する愛宕・貝取・豊ヶ丘地区等のまちづくり計画策定に向けた基礎として、引き続き再生推進会議にて検討
- ・今後改定予定の多摩市都市計画マスタープランにてニュータウン区域における将来都市構造として検討・反映